

1 中期学校経営方針

(1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

学校教育目標	教育課程全体で育成を目指す資質・能力
ひとがすき まちがすき いわさきの子 (知) とともに学び合い、ねばり強く解決していける子を育てます。 (徳) 自分も友達も大好きで、心豊かに正直に生きる子を育てます。 (体) 心と体の健康を鍛え、自分や人の生命と体を大切にすることを育てます。 (公) 「ひとがすき、まちがすき、いわさきの子」をめざし、地域と豊かにかかわり、共に生きる子を育てます。 (開) 様々な人々とのコミュニケーションや体験を通して、日本や世界の文化や歴史を学び、社会の変化に対応できる子を育てます。	〈自分づくりに関する力〉 ～なりたい自分を見つける力～

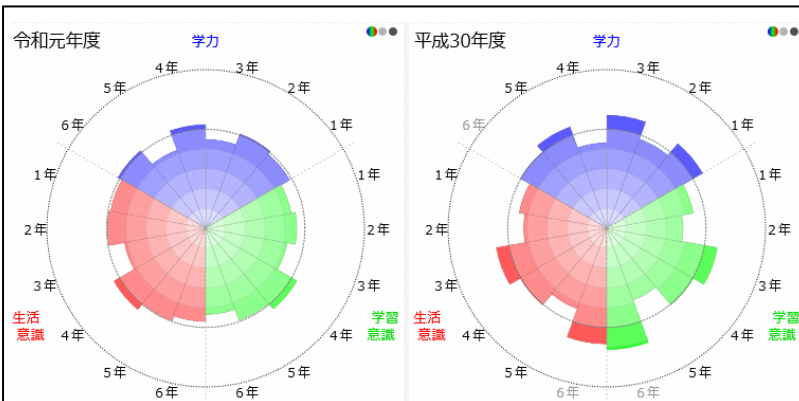
(2) 中期取組目標

中期取組目標
○全教育活動を通して、自己有用感に裏づけられた自尊感情を育てます。 ○一人ひとりの子どもにしっかりと教え、しっかりと引き出す指導を通して、「知」「徳」「体」「公」「開」で示す「横浜の子ども」を育てます。 ○子どもたちが安心して過ごすことのできる、安全な学校づくり、教育環境づくりに努めます。 ○地域・保護者に「開かれた学校」を推進するとともに、学校運営協議会とも連携して子どもの成長を支えます。 ○教育課題に協働して取り組む中で、教職員の資質の向上を図ります。

(3) 学力向上に向けた重点取組分野・具体的取組

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①実態把握に努めるとともに、聞く・話す等の学習のルールの定着を図る。②児童の主体性を伸ばすような教育課程の作成に取り組む。③読書・漢字・計算の基礎的基本的な知識の習得や学習に対する姿勢を養う。④学年内での教材研究に努め、人権的視点も意識した授業力の向上を目指す。
担当 研究部	

2 横浜市学力・学習状況調査等からの実態把握



(1) 学力の概要と要因の分析

学力は、学年によりばらつきがある。教科によってもばらつきがあり、社会と算数は横浜市の平均と同じぐらい、国語と理科は市の平均をやや下回っている。学習意識は、図工と家庭科は高い。

各教科とも学習の大切さを理解し、「好き」と答えている子どもが多い。しかし、「学校の授業は分かりやすいですか」という項目では、「よく分かる」「だいたい分かる」と答えた子どもが去年に引き続き市の平均より低かった。「主体的・対話的で深い学び」の視点での早期の授業改善が必要である。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：活用力は市の平均を上回っているが、基礎・基本に課題がある。
- 算数科：「数学的な考え方」が伸びた学年もある。
- 社会科：活用力は延びてきたが、基礎・基本に課題がある。
- 理 科：知識・理解に課題のある学年が多い。

(3) 経年変化の状況と要因の分析(学習・生活意識調査も含めて分析)

全体的に学力では活用力が伸びてきた。基礎・基本の力が身に付けば学力全体が向上すると思われる。

「まちな行事に積極的に参加する。」「学校は安心できる場所である。」と考える児童は横浜市の平均より高い。「授業では自分の考えを発表している。」「話したり、聞いたりして、人とかがかわることが好き。」という児童の割合も伸びてきている。まちと学校が好きで自分の考えを安心して発表できる児童の実態がうかがえる。それらの要因から活用力が伸びてきていると推測できる。

課題は基礎・基本の定着である。繰り返し練習する場面を意図的計画的に授業の中に設けたり個に応じた学習指導の在り方を改善したりするなどして定着を図っていききたい。

3 令和2年度 学年・教科等として育成を目指す具体的な資質・能力と具体的取組

	育成を目指す 具体化した資質・能力	具体的取組	
		前期	後期
1年	自分づくりに 関する力 ～なりたい自分 を見つける力～	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活経験や体験活動など、経験と結びつけて話し合ったり、説明したり、書いたりする場を設け、表現活動を大切にします。 ○チャレンジタイム・休み時間等を利用し、授業時間以外でも児童一人ひとりが読書や体力作りに親しめる時間を確保します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生活科で、自然の事象など、子どもの気づきを大切に学習を展開し、対象とかかわっていこうとする意欲を引き出します。
2年		<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活経験から、学習課題につながる疑問をもち、詳しく説明したり、大事なことは何かを考えながら話を聞いたりするようにします。 ○授業時間や休み時間など学校での全活動を通して、他者を理解する態度を育てます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えや意見を、ペアやグループで主体的に伝える機会を設定し、相手が分かりやすい伝え方になっているか振り返りながら、伝え合う力を育てます。
3年		<ul style="list-style-type: none"> ○一人ひとりの生活経験や体験活動から、学習に結びつく課題を見つけ、子どもたちが主体的に学習に取り組めるようにします。 ○机上の整頓、授業中の発表の仕方など基本的な学習ルールを明確にし、学習に集中できる環境を整えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを、相手を意識した話し方で伝えたり、話の要点に気を付けてまとめたりする活動を多く設定します。
4年		<ul style="list-style-type: none"> ○話を聞く姿勢を大切にして、一人ひとりに分かりやすい授業、集中できる環境整備に取り組みます。 ○新しく学ぶことへの意欲・関心をもって主体的に学習に取り組めるように、資料や実験結果をもとに考察したり、意見を共有したりする場を多く設定します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日々の学習や生活の中で、自分の思いを自分の言葉で伝え、友達の意見を受けて補足して話したり、自分の意見に取り入れられることができるようになります。
5年		<ul style="list-style-type: none"> ○自分で調べ、確かめる活動を意図的に計画して学習内容を実生活に即して捉えられるようにします。 ○学習や活動の相手・目的意識をはっきりさせ、子どもにとって意味のある反復を通して技能や知識を身につけるようにします。 	<ul style="list-style-type: none"> ○集団としての活動や体験を基として、自分の考えや体験について言語活動を通して表現し、友達と伝え合いながら学べる楽しさを実感できるようにします。
6年		<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、議論したり協働したりします。 ○学習や活動の相手・目的意識をはっきりさせ、子どもにとって意味のある反復を通して技能や知識を身につけるようにする。その成果として実生活に活用できる力を育成していきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活や社会生活との関わり、自己の生き方との関わりを重視した課題を意識して設定していきます。
個別支援学級		<ul style="list-style-type: none"> ○児童が意欲的に学習に取り組んでいくために、動作化したり、視覚的な手がかりを加えたりするとともに、様々な体験的活動を取り入れるようにします。 ○児童の特性や発達段階に配慮し、「聞くこと・話すこと」「読むこと」「書くこと」のどの領域に重点をおくかを考えます。また、集団学習、グループ学習、個別学習等の指導形態を工夫します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○音声言語だけでなく、多様なコミュニケーション手段の習得に留意します。 ○集団での活動を通じて生活経験を広め、社会生活に適應する力を養います。